



椎名誠さんを囲んで行われたトークセッション

楽しみながらテニスを学びます

～初心者テニス教室～

5月7日(火)から、岡志別の森運動公園で文化・スポーツ振興財団主催の『初心者テニス教室』が始まりました。この教室は、市民にもっとテニスに親んでもらおうと、平成10年から毎年春に開かれているもので、今年は20代から60代まで46人が参加。

初日は、講師の登別テニス協会会員の指導で、準備体操の後、経験別に2グループに分かれ、ラケットの持ち方や2人1組のラリーの練習などに取り組みました。

この教室は、6月7日(金)までの毎週火曜日と金曜日の計10回開かれ、ルールやスイングの基本を学んで、ゲームができるレベルを目指します。



山の魅力を満喫しました

～カムイヌプリ山開き・市民登山会～

5月12日(日)、登別山岳会主催の『カムイヌプリ山開き・市民登山会』が行われました。

この催しは、シーズン中の登山の安全を願い、毎年この時期に行われているもので、今年で28回目。

登山口で安全祈願や登山道のテープカットの後、小学生から81歳までの約60人の参加者は、新緑がまぶしい山道を進み、約2時間ほどで頂上へ到着。眼下に広がる幌別の街並みを眺めながら昼食を取り、下山後は同会が用意した甘酒や山菜のてんぷらに舌鼓を打つなど山の魅力を満喫しました。



地域の魅力づくりとは

～地域からの発信を考えるシンポジウム～

4月26日(金)、市民会館で胆振支庁主催の『地域からの発信を考えるシンポジウム』が行われました。

このシンポジウムは、週刊誌に書いた記事をきっかけに室蘭市民との結びつきを深めている作家の椎名誠さんを招き、胆振地域の個性を生かし発信していくには何が必要か考えようと開催されたもので、胆振管内から約450人が参加しました。

椎名さんは『旅人は何を求めて北へ来るのか』と題して講演し「人は、その土地の『色』や川のせせらぎなどの『音』、心地よい『風』を求めてやって来る」と持論を展開。「北国の荒々しい気候が逆に心を慰める。北海道には、住んでいる人が気づかない良い風景がたくさんある。それを探しアピールするのが地域の魅力づくりでは」などと話しました。

引き続き椎名さんを囲み、登別おにたま協議会をはじめ、穂別町と壮瞥町のまちづくりリーダーが参加してトークセッションが行われ、それぞれの取り組み状況などが披露されました。



講演する椎名誠さん

栗さん、元気に育ってね!

～新入生記念植樹～

5月7日(火)から21日(火)にかけて、市内小学校6校で登別市緑化推進協議会主催の『新入学生記念植樹』が行われました。

この事業は、自然とのふれあいを通じ、子どもたちの健やかな成長と学校のみどり豊かな環境づくりを目的に、平成11年から行われているものです。

5月13日(月)に幌別西小学校で行われた記念植樹には、78人の新1年生が参加。登別市緑化推進協議会の委員から樹木の大切さや植樹の方法などの説明を受けた後、早速グラウンド沿いにクリの苗木6本を植樹しました。子どもたちは、一人ひとり苗木をいたわるように、小さな手で根元に土を盛り、ペットボトルに入った水をそっと掛けていました。

